

第 14 回公益社団法人山形県柔道整復師会少年少女柔道大会実施要項

- 1 開催目的 柔道を通じて、少年少女の健全なる心身の育成に努めると共に、参加者相互の親睦並びに、柔道整復師に対する理解を深め、柔道の発展に寄与することを目的とする。
- 2 主 催 公益社団法人山形県柔道整復師会
- 3 日 時 令和 7 年 3 月 9 日（日）午前 9 時 15 分開会（午前 8 時 15 開場）
午前 8 時 30 分審判・監督会議（体育館 2F 会議室）
- 4 会 場 山辺町武道館
〒990-0302 山形県東村山郡山辺町緑が丘 1 番地
023-664-7263
- 5 参加資格 ○出場チームは、全日本柔道連盟に団体登録をしていること。また選手はその団体から登録をしていること。参加チームの監督は、全日本柔道連盟公認指導者資格（C 指導員）以上を保有していること。選手（保護者）は参加承諾書を受付時に必ず提出のこと。なお保護者は参加選手の大会出場にあたり、事前に医師の健康診断をうけさせ、異常（試合の出場に支障）ないことを確認しておくこと。
- 6 チーム編成 団又は道場単位とし各所属 1 チームとする。ただし、該当選手が少なく出場できない場合青少年健全を考慮し該当選手が少ないどうしなどの合同チームを認めることもある。ただし東北ブロック大会に選考派遣することはない。
 - 監督 1 名、コーチ 1 名、選手 5 名とする。
 - 選手の編成は大会当日の学年で大将・副将は 5 年生、中堅・次鋒は 4 年生、先鋒は 3 年生とし、学年順に配列する。ただし、下学年の児童が上学年の児童の位置に出場することができる。同学年の内は「体重の軽い順」に配列すること。又、オーダーに空欄が生じた場合は大将から後詰めとする。選手が試合当日に病気・ケガ等により急遽試合に出場できなくなった場合、監督は変更する選手の参加承諾書を監督会議が始まる前まで競技役員に提出し、監督会議で選手変更の承認を受けるものとする。試合開始後ケガ・病気等で欠員がでても補充は認めない。
 - 選手は 3 年生以上とし 2 年生以下は認めない。
 - 個人戦は各チーム各学年で男女関係なく 2 名までとする

- 7 試合方法
- 予選リーグ及び決勝トーナメント法とする。
 なお、各予選リーグからそれぞれ1チームが決勝トーナメントに進出する。
 - 各チーム5名の点取り対抗戦とする。
 - 勝敗決定の方法は、次のとおりとする。
 - (1) リーグ戦におけるチームの順位決定法は、次の順序による。
 - ア 勝ち数の多いチーム
 - イ 負数の少ないチーム
 - ウ 勝者数の多いチーム
 - エ 「一本勝ち」の多いチーム
 - オ 「技あり勝ち」の多いチーム
 - カ 「僅差勝ち」の多いチーム
 - キ 敗者数の少ないチーム
 - ク 「一本負け」の少ないチーム
 - ケ 「技あり負け」の少ないチーム
 - コ 「僅差負け」の少ないチーム
 - (2) トーナメントの勝敗は次の通りとする。
 - ア 勝者数の多いチーム
 - イ 「一本勝ちの」多いチーム
 - ウ 「技あり勝ち」の多いチーム
 - エ 敗者数の少ないチーム
 - オ 「一本負け」の少ないチーム
 - カ 「技あり負け」の少ないチーム
 - ケ 同上でも同じ場合代表戦を1回行い、勝敗を決する。
 - (3) リーグ戦で、トーナメント戦進出のかかるチームが同率の場合代表戦を1回行い、勝敗を決する。
 - (4) 代表戦は、引き分けのなかから抽選で選出するものとする。
- 8 審判規定
- ①国際柔道連盟試合審判規定及び国内における少年大会特別規定によって行う。
 - ②審判会議申し合わせ事項によって行う。
 - 試合時間は、すべて2分とする。
 - 勝敗の決定基準
 勝敗の決定基準は「一本」「技有」「僅差」とし、スコアの差が無く指導の差1以内の場合は「引き分け」とする。技によるスコアが同じで、「指導」の差が2あった場合「僅差」による優勢勝ちとする。
 個人戦及び団体代表戦は試合時間2分とし、スコアが同じで指導の差1の場合旗判定で必ず勝敗を決する。
- 9 表彰
- 団体戦は優勝・準優勝・第3位のチームを表彰する。個人戦も各学年優勝・準優勝・第3位を表彰する。

- 10 組合せ 団体予選リーグ・個人戦については大会関係者で決め、団体決勝トーナメント戦は予選リーグ1位通過チームの抽選によって決める。
- 11 選手派遣 東北大会は団又は道場単位とし、上位2チームを派遣する。
全国大会は山形県柔道選抜1チームを派遣する。
- 12 安全管理 ○選手は各チームでスポーツ安全協会障害保険等に加入していること。(万が一の事故発生の際は各自加入の保険を適応すること。)
○大会当日は救護係として公益社団法人山形県柔道整復師会会員を配置して万が一の事故発生に備える。
- 13 試合順序 「形競技」「個人戦」「団体戦」の順序で行う。
- 14 その他 ○選手受付は、午前8時15分より開場入口で行う。
○ゼッケン(所属チーム名と名字入り)を、柔道衣に着用して試合すること。
初めからゼッケンを取り付けない選手は、出場できない。
○不測の事態が生じた場合の処置は審判長に一任する。
○各チームより審判員協力をお願いします。申込書に氏名を記載してください。
○試合会場は監督、コーチ、選手、のみとする。2階観覧席は入場希望者全員とする。ただし体調不良者(特に高熱)は入場を自粛すること。

脳震盪の対応について

ジュニア(20歳未満)以下の大会要項に下記条項を追加する
選手及び指導者は下記事項を厳守すること。

- 1 大会1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
- 2 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること。)
- 3 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
- 4 当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し書面により事故報告書を提出すること

第 14 回公益社団法人山形県柔道整復師会少年少女柔道「形」競技会実施要項

- 1 主旨 嘉納治五郎師範は柔道稽古方法を「形」と「乱取」の二種に分類し、「形」は防禦に関しあらかじめ種々の場合を定め、理論に基づき身体の動きを規定し、その規定のごとく稽古すると教え、「乱取」とは一定の方法に拠らず、各自、勝手的手段を用いて稽古することであると教えられた。「投げの形」は講道館柔道草創期の時代を背景として制定された古典である。少年少女柔道は試合優先主義、勝負一辺倒から技の理合いの原点を正しく理解、体得させることが極めて重要である。柔道を通じて、少年少女の健全なる心身の育成に努めると共に、参加者相互の親睦ならびに、柔道整復師に対する理解を深め、柔道の発展に寄与することを目的とする。
- 2 主催 公益社団法人山形県柔道整復師会
- 3 日時 令和 7 年 3 月 9 日(日)午前 9 時 15 分開会(午前 8 時 15 分開場)
8 時 30 分審査員・監督会議(体育館 2F 会議室)
- 4 会場 山辺町武道館
〒990-0302 山形県東村山郡山辺町緑が丘 1 番地
023-664-7263
- 5 参加資格と編成 出場チームは全日本柔道連盟に登録している団体で、単一所属チームであること。各団体 1 組まで出場を認める。
チーム構成は、監督 1 名、選手 2 名とし 4 年生以上とする。
監督は全日本柔道連盟に指導者登録していること。
選手は保護者の参加承諾書を申し込み時に必ず提出のこと。なお保護者は参加選手の大会出場にあたり、事前に医師の健康診断を受けさせ異常(試合の出場に支障)がないことを確認しておくこと。
- 6 競技方法 審査員は 5 名で構成し、最高点と最低点を除いた 3 名の審査員の合計点を 100 点満点に換算し順位を決定する。受・取を一体と見て評価し、「形」の技、及び「礼法 全体の流れ」を各 10 点満点で採点し各組 1 回の演技とする。その他、審査基準の細部については別途定める。不測の事態が生じた場合の処置は、審査委員長に一任する。
- 7 試合順序 「形競技」「個人戦」「団体戦」
- 8 選手派遣 全国形大会は山形県優勝チームを派遣し、東北形大会は上位 2 チームを派遣する。
- 9 表彰 優勝・準優勝・3 位を表彰します。